

平成22年3月23日（火）
国土交通省関東地方整備局
東京空港整備事務所

記者発表資料

東京国際空港再拡張事業における環境監視委員会の開催

国土交通省は、我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により急ピッチで工事を進めています。

工事実施にあたっては、東京湾の水環境や大気環境に与える影響を極力回避する施工方法を採用しておりますが、今般、平成22年3月3日（水）に第5回環境監視委員会を開催し、平成21年夏季～平成21年秋季までの環境監視結果について委員会に諮り、環境監視上問題ないことが確認されました。

http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/haneda_saikaku/kankyuu/03_com.html

（参考）

再拡張事業の工事実施にあたっては、新設滑走路及び飛行場施設の工事中における環境監視計画（工事中）に基づき、学識経験者や関係自治体から構成される「環境監視委員会」（委員長 清水 誠 東京大学名誉教授）を設置するとともに、定期的に委員会、WGを開催し、環境監視結果の確認を受けながら工事を進めて参りました。

今後も継続して、環境監視を徹底し、その結果を定期的に環境監視委員会に諮るとともに、学識経験者等の意見を踏まえながら工事を進めて参ります。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

所属 国土交通省 関東地方整備局
東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室
氏名 環境課長 まつもと 松本 しげる 茂、環境計画係長 たかの 高野 ひろゆき 弘之
電話 03-5756-6575

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会構成

(順不同・敬称略)

(学識経験者)

| | | |
|-----|-------|----------------------|
| 委員長 | 清水 誠 | 東京大学名誉教授 |
| 委員 | 小倉 紀雄 | 東京農工大学名誉教授 |
| 委員 | 猿田 勝美 | 神奈川大学名誉教授 |
| 委員 | 時田 保夫 | 財団法人小林理学研究所 顧問 |
| 委員 | 古川 恵太 | 国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 |

(行政関係者)

| | |
|-----|------------------------------------|
| 関係者 | 東京都 環境局 都市地球環境部 環境都市づくり課アセスメント担当課長 |
| 関係者 | 神奈川県 環境農政部 環境影響審査担当課長 |
| 関係者 | 千葉県 環境生活部 環境政策課長 |

(事務局)

| |
|---------|
| 関東地方整備局 |
| 東京航空局 |

| | | | |
|--------|--|-------------------------------------|--|
| 【開催日時】 | 平成22年 3月 3日 (水) 15:00～17:10 | | |
| 【議題】 | 1. 工事状況について 2. 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果について(H21 年夏季・秋季) 3. 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画 存在・供用時 (素案) について 4. 今後の予定について | | |
| 【出席者】 | 清水委員長、小倉委員、猿田委員、時田委員、古川委員、東京都、千葉県、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、東京空港事務所 | | |
| 【開催場所】 | 羽田空港第一ターミナルビル 6F ギャラクシーホールA | | |
| 【資料】 | 資料-1 | 環境監視結果の概要について | |
| | 資料-2 | 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果 | |
| | 資料-3 | 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画 存在・供用時 (素案) | |
| | 資料-4 | 今後の予定について | |

1. 開会挨拶

2. 委員長挨拶

3. 議 事

3-1 工事状況について

[資料説明]: 事務局より、工事の進捗状況について説明。その後、大気環境・水環境の監視結果について報告を行った。

[大気環境に関して]

委員: 工事による影響は特にみられない。

一週間分の測定結果と環境基準との比較は、直接比較という点において難しい面もあるかもしれないが、長期的に観測することにより、意義も出てくると考える。

[水環境に関して]

委員: 潮流の状況については、埋立部の概成以降、埋立部に沿った流れに変化してきている。これは地形的なものから判断できる変化に収まっていると感じた。流況の頻度分布をみると、一部で少し早い流速がみられるが、これは気象条件などによるもの

第5回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 議事概要

と考えられる。今後、このようなところに注目した監視を続けてください。

委員：これまで、水質に関しては、ほとんど影響がなかったと考えて問題ないと思う。ただし、もし異常値が出たとしても早期に発見できるので、このような監視体制を継続して行うことが大切である。

委員：干潟の生態系調査の中で、中州の底質については、少し高い値がでていいる。これは空間的に全データをみると、変動の範囲を外れている値はほとんど出ていない。このことから、局所的に有機物がたまって、その腐食による変化と考えられる。

3-2 事務局より、水環境に関して、「東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画
存在・供用時（素案）」報告を行った。

委員：暗環境調査の付着生物については、付着生物と底質の状況について同様の調査を実施して頂きたい。

委員：大気環境についてはいかがか。

事務局：本来であれば、今回の委員会でご提案すべきですが、現在最終案の調整を行っています。基本的にはアセスメントのときの調査地点と調査方法を踏襲するという
ことで作成しています。次回の委員会までには案を確定するような方向で調整を進め
させていただければと考えております。

事務局：今回は、水環境のみの計画を説明させていただきましたが、大気環境も合わせて
第6回環境監視委員会でご審議いただきたい。

(了)